



『スポーツを通じた社会貢献』

JFEスチール株式会社 専務執行役員
西日本製鉄所 福山地区所長
石毛 俊朗



JFEスチールは今年4月、発足して20年を迎えます。西日本製鉄所(福山地区)としては、旧会社の時代を含めるとこの福山の地で操業を始めて、今年で58年目を迎えることになります。半世紀以上にわたって生産活動が続けて来られているのも多くの福山市民の皆様のご理解、ご協力があったものと感謝いたします。

弊社は企業行動指針のひとつに「良き企業市民として、社会との連携と協調を図り、積極的な社会貢献に努める」ことを掲げており、「JFE西日本フェスタ」の開催など生産活動だけではなく地元とのつながりを大切に「JFEスチール」をもっと身近に感じてもらえるような社会貢献活動に取り組んでいます。

こうした社会貢献活動のひとつとしてスポーツを通じた社会貢献にも取り組んでいます。弊所には、福山市・倉敷市代表として社会人野球都市対抗野球大会出場やプロ野球選手を輩出している「JFE西日本硬式野球部」や福山を拠点に全日本実業団駅伝大会や数々のマラソン大会に出場している「JFEスチール競走部」をはじめ、その他にもバスケットボールやバレーボールといった実業団レベルで活躍している運動部があります。

スポーツは競技者だけではなく趣味や娯楽、観戦、応援などいろいろな垣根を越えて楽しめる人と人とのつながりを生み出すものであり、弊所の硬式野球部や競走部などの運動部は企業スポーツとしての枠組みに留まらず、地元を中心に多くの皆様に関心を寄せていただき力強い応援を頂いております。

また、硬式野球部、競走部は、小中学生を対象にした野球教室や陸上教室を開催しており、子どもたちの「こうしたい。こうなりたい。」という純粋な思いを少しでも叶えるためのサポートをさせていただいています。アスリートとのふれあいや実技指導などを通じて、子どもたちやそのご家族にもスポーツをより身近に感じてもらうことで、地元との良好な関係が育まれていると思っております。

その他にもサッカー、バレーボール、バスケットボール、陸上大会、軟式野球大会を「JFEスチール杯」として弊所の福利厚生施設を開放し、各連盟の皆様のご協力や弊所運動部所属選手の協力のもと開催しています。次代を担う子どもたちにスポーツの楽しさや親しみやすさを感じてもらえる場の提供にも取り組むことで、将来、スポーツ界を代表するような選手が誕生することを願いつつ福山のスポーツの発展に微力ながら寄与できればと考えております。「製鉄所」と言う一見硬いイメージがあると思いますが、弊所が地元根差した活動を継続していく上で、スポーツを通じた社会貢献活動は、より「JFE」に親しみを抱いてもらえる、つながりを養うことができる唯一無二のものと思っております。弊所の様々な社会貢献活動が浸透していくことで「この福山にJFEがあってくれて良かった」と言われるような企業になるべく、これから先も歩んでいきたいと思っております。



[野球教室]



[陸上教室]



[JFEスチール杯 小学生バレーボール大会]



[JFEスチール杯 小学生サッカー大会]

故天野肇様を偲んで

公益財団法人福山市スポーツ協会相談役 天野肇様は、2022年(令和4年)12月30日にご逝去されました。満84歳でした。ここに謹んで哀悼の意を表します。

天野肇様は、広島大学附属福山中・高等学校を卒業して京都大学農学部に入學、卒業後父親が経営される天野実業株式会社に入社、その後、社長に就任されました。

天野肇様は、公益財団法人福山市体育協会会長及び公益財団法人福山市スポーツ協会理事長を延べ22年間務められ、福山市のスポーツ界を導いてくださいました。穏やかな人柄は、多くの人に親しまれ、尊敬されました。

福山市のスポーツ指針が「福山市スポーツ振興基本計画(2007年(平成19年))」から「福山市スポーツ推進計画(2017年(平成29年))」へと変遷していく中、天野肇様は、よく役員の見解を聞いたうえで多くの事業を手掛けてこられました。

私が役員10年間ほどの期間に特筆すべき、つぎのスポーツ事業などがおこなわれました。

- ・「体協ふくやま」の復刊(2011年度(平成23年度))。31年ぶりに復刊し、名称は「スポ協ふくやま」に改め、今回で34号になります。
- ・財団法人福山市体育協会シンボルマークの作成(2012年度(平成24年度))。ばらをイメージしたもので、今も公益財団法人福山市スポーツ協会の胸章、スポ協ふくやま(広報誌)等に利用されています。
- ・財団法人福山市体育協会から公益財団法人福山市体育協会へ移行(2013年度(平成25年度))。
- ・福山スポーツ史上巻・下巻の発行(上巻2013年度(平成25年度)・下巻2015年度(平成27年度))。福山のスポーツ史作成の提案があり、編集委員会を設置して作成しました。このスポーツ史の背表紙は、妻 盈江様の毛筆指導によるご本人直筆のものと聞いております。上巻・下巻は共に福山市内スポーツ競技団体・学校・図書館・公民館等に寄贈されました。
- ・福山スポーツ史上巻発刊を記念し、ロンドン五輪女子バレーボール3位監督 真鍋政義さんを講師に招き、記念講演を開催(2014年度(平成26年度))しました。
- ・福山市体育協会創立100周年記念事業として、100周年記念誌発行、記念式典挙行、エフピコアリーナふくやまにモニュメント寄贈等を実施(2018年度(平成30年度))しました。
- ・公益財団法人福山市体育協会・公益財団法人福山市体育振興事業団・公益財団法人福山市青少年育成事業団の3団体が合併し、公益財団法人福山市スポーツ協会を設立(2019年(平成31年)4月)。天野肇様は、合併に尽力され、理事長に2019年(平成31年)4月就任し、2021年(令和4年)3月まで務められ、同年4月から役職員の強い要望があり相談役に就かれました。

親子で福山スポーツへの惜しみない支援

福山市体育協会会長の在任期間を見ると、前会長天野肇様(22年間)と父親の元会長天野辰雄様(43年間)を合わせると65年間もの長期にわたり貢献されました。また、天野辰雄様から、天野肇様に引き継がれた公益財団法人天野スポーツ振興財団は、福山市民のスポーツ活動を主催・後援するなど、広く支援されています。さらに、天野肇様は、国際大会などで活躍するアスリートの輩出やジュニア選手の競技力向上のために、2022年(令和4年)に福山市へ1億円を寄付されました。本協会はこれを福山市から受け、天野肇スポーツ基金として規程を定め、目的・用途に沿った事業を2023年度(令和5年度)から始めます。

天野肇様から賜りましたご尽力に対しまして、幾重にもお礼を申し上げます。ありがとうございました。

公益財団法人福山市スポーツ協会理事 企画広報委員
平松 携

在りし日の天野肇様



第70回ふくやまスポーツ祭で挨拶
(2018年(平成30年)9月23日)



公益財団法人福山市体育協会100周年記念式典 被表彰者に賞状授与
(2018年(平成30年)10月20日)



第38回ふくやまマラソン 小学生2.5km女子の部で賞状授与
(2019年(平成31年)3月17日)



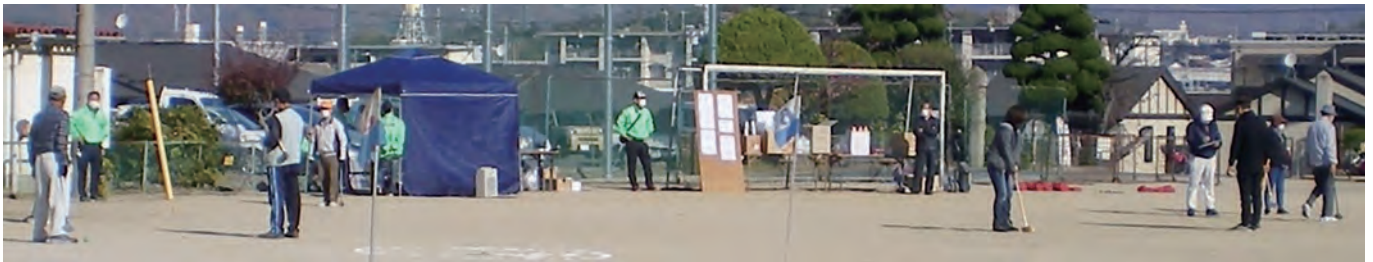
エピコアリーナふくやまの
公益財団法人福山市体育協会寄贈
モニュメント除幕式で挨拶
(2020年(令和2年)3月1日)



エピコアリーナふくやま モニュメント
(2020年(令和2年)3月6日撮影)

学区体育会活動報告

引野学区体育会



2020年度からは多くの体育会行事を中止せざるを得ない状況が続いていましたが、2022年度は小学校と合同で行う運動会も接触の多い種目を避け午前中だけの開催として3年ぶりに行うことができました。野球部やバレー部等専門部の競技会の他にもグラウンド・ゴルフ大会、歩け歩け運動を開催して幅広い年齢層の学区民の皆さんにスポーツを楽しんでいただく事ができました。



千田学区体育協会

2022年度の千田学区体育協会の行事は、4月の体育協会総会に始まり、5月は千田川を清掃するクリーンアップ作戦、6月はソフトバレーボール大会と学区軟式野球大会、7月は女子バレーボール大会、8月は千田ふるさと盆踊り大会、9月は学区ソフトボール大会、10月は今回、福山市主催の健康ウォーキング大会、そして学区民スポーツ祭、11月は千田ふれあい文化祭、12月の体育協会研修会は中止にしましたが、2023年の元旦には蔵王山の頂上に登って初日の出を臨む、学区新年登山会、2月は学区マラソン大会、3月は学区グラウンド・ゴルフ大会と、年間を通して沢山の行事を行っております。その他、福山市の行事にも参加しております。

2020年と21年はコロナの影響で、大きな行事は中止にしましたが、22年度においては、コロナ感染者が増える中で行事をする事に多くの批判も受けましたが、それ以上に多くのまちづくり推進委員会所属の団体から、「一歩前に進む為にも体育協会の力で何とか行事を開催して欲しい」と背中を押され、殆どの行事を開催することが出来ました。

8月の千田ふるさと盆踊り大会の時は毎日のコロナ感染者が福山市では、1600人を超えた頃で、中止も視野に入れておりましたが感染防止策を練りながら開催をしました結果、予想を超える沢山の来場者様が来場され、「これが学区民の答えだったのか」と歓喜し、学区の皆様の理解と協力により、やっと一歩前に進めた事に喜びを感じた一年でした。



新規事業紹介

江草仁貴さんに公益財団法人福山市スポーツ協会 アンバサダーを委嘱



公益財団法人福山市スポーツ協会は、本協会が実施している事業やその魅力を全国に発信するため、アンバサダー制度を2022年(令和4年)4月から設けました。この制度で初めてのアンバサダーに地元福山出身で、現在阪神タイガースファーム投手コーチをされている江草仁貴さんを選任しました。

シーズン終了後の2022年(令和4年)12月27日、福山通運ローズアリーナにおいて、本協会の菅田会長より江草さんに委嘱状が交付されました。委嘱状を受け取った江草さんは「自身の活動を通じて多くの方々に福山市スポーツ協会の情報が発信できるように努めていきたい」と抱負を述べられました。

シーズン終了後の2022年(令和4年)12月27日、福山通運ローズアリーナにおいて、本協会の菅田会長より江草さんに委嘱状が交付されました。委嘱状を受け取った江草さんは「自身の活動を通じて多くの方々に福山市スポーツ協会の情報が発信できるように努めていきたい」と抱負を述べられました。

シーズン終了後の2022年(令和4年)12月27日、福山通運ローズアリーナにおいて、本協会の菅田会長より江草さんに委嘱状が交付されました。委嘱状を受け取った江草さんは「自身の活動を通じて多くの方々に福山市スポーツ協会の情報が発信できるように努めていきたい」と抱負を述べられました。



広島東洋カープの上本崇司選手などが 野球教室の講師と自主トレで来福

公益財団法人福山市スポーツ協会では、2022年(令和4年)12月24日にエブリー福山市民球場で、広島東洋カープの上本崇司選手(福山市出身)、磯村嘉孝選手、小窪哲也コーチ、土生翔平スコアラー、中田廉さんを講師に迎え、3年ぶりに野球教室を開催しました。

(協力:福山市軟式野球連盟少年部・学童部, 福山平成大学軟式野球部, 株式会社ムロオ)



[野球教室で指導を受ける子どもたち]



また、2023年(令和5年)1月7日～21日には、広島東洋カープの上本崇司選手と中村奨成選手、プロゴルファーの小西健太選手(尾道市出身)が、エブリー福山市民球場などで自主トレを行いました。

[守備練習をする上本崇司選手と中村奨成選手]

ふくやまスポーツアカデミー2022

公益財団法人福山市スポーツ協会は、「スポーツを通じた未来輝くふくやま」の実現をめざし、全ての市民や福山を訪れる人々がスポーツと学び、文化、芸術、語らい、ビジネスなど多種多様な活動を通して交流し活気が溢れ、いつまでも輝き続けることのできるまちをめざすプロジェクトを推進しています。

ふくやまスポーツアカデミーは、このプロジェクトを推進する人材を発掘・育成することを目的とし、福山市在住もしくは、在勤でスポーツを通じた社会課題の解決や地域活性化に関する活動を実施しておられる方やこれから実施したいと考えておられる方、更に他地域でもこのような地域活性化プロジェクトに関心をお持ちの方を対象にエフピコアリーナふくやまの多目的室を会場として実施しました。

10月19日の初回には、スポーツ庁より参事官(地域振興担当)付スポーツ地域振興調査官の田中聖也様に、2回目の11月16日は、スポーツ庁でも勤務された元国土交通省職員で現在、ニューラルポケット株式会社デジタルソリューション事業本部営業推進部部長の一言太郎様、3回目の11月30日は、武蔵野大学アントレプレナーシップ学部教授の佐藤大吾様、4回目の12月7日は、株式会社OneBright KOB E代表取締役社長の渋谷順様、5回目の12月21日は、特定非営利活動法人健康経営研究会理事長の岡田邦夫様、6回目の1月11日は、株式会社ブリヂストンAHL企画推進・開発課課長の近藤大輔様、7回目の1月25日は、株式会社ジオン商事専務取締役の大野直志様を、第8回目の2月8日は早稲田大学スポーツ科学学術院教授の間野義之様、第9回目は2月22日、大阪体育大学学長で早稲田大学名誉教授の原田宗彦様をお招きし、ご講演いただきました。

田中様からは、全国のスポーツによる地域活性化の事例を含めた現在の国のスポーツ政策を伺いました。一言様からは、まちづくりを視点に、データを活用する中で様々な角度から施策アプローチすることで、改善できることがあることを学びました。クラウドファンディングを最初に日本に持ち込まれた佐藤様からは、これからの資金獲得の具体的な手法など、特に財源確保の視点で、講演をいただきました。渋谷様からは、民間ベースで建設予定の神戸アリーナと地域活性化の接点についての具体的展望を伺いました。岡田様からは、医師としての知識を交え、企業や人の健康について伺いました。近藤様からは、スポーツによる共生社会の実現をめざした事業の企画立案に伴う同じ志を持った仲間づくりについて学びました。大野様からは、アパレル企業のノウハウを異業種分野と連携する中で、新たな事業スキームを作りあげていくことを学んだところです。早稲田大学スポーツ科学学術院教授の間野義之先生からミライのブカツ・ビジョンをテーマに様々な取組の実践例をお示しいただき、福山の地域資源を生かした形で新しい学校部活動の取り組みを講演いただきました。大阪体育大学学長で早稲田大学名誉教授の原田宗彦先生からはスポーツツーリズムをはじめ、持続可能なスポーツ地域マネジメントとして国内



第8回「ミライのブカツ・ビジョン」

外の実例を多くご紹介いただきました。常にスポーツ界のトップでご活躍されている先生方から講演いただいたことは、福山市にとって大きな財産となりました。今回のスポーツアカデミーの集大成として、3月8日に、これまで参加いただいた皆様が集まり、福山の部活ビジョンをテーマにアイデアを出し合いました。今後も公益財団法人福山市スポーツ協会では、人材育成の事業としてスポーツアカデミーを継続・発展させて「スポーツを通じた未来輝くふくやま」の実現に向けて取り組んでいきたいと思います。



第1回「我が国におけるスポーツによる地域振興政策」

備後の「まち」と「ひと」とともに未来へ。

**Protect
BRAIN!**
頭を守って、
安全に競技を楽しもう!



- 診療科目
- 脳神経外科 ●脳神経内科 ●脊椎脊髄外科 ●循環器内科
- 外科 ●整形外科 ●救急科 ●放射線科 ●麻酔科(佐藤倫由)
- リハビリテーション科 ●内科 ●形成外科 ●小児神経科
- 泌尿器科(紹介のみ) ●皮膚科(入院のみ)
- 歯科(紹介・入院のみ)

■救急告示病院/二次救急病院/24時間体制

- SHOUWAKAI
- 社会医療法人 祥和会
- 脳神経センター大田記念病院

福山市沖野上町3-6-28 〒720-0825

☎084-931-8650 [病院代表]

第77回,第78回国民体育大会・第22回全国障害者スポーツ大会出場者

国民体育大会

2022年(令和4年)10月1日~11日 9月30日~10月10日 栃木県

- 水泳(競泳)／選手:西田拓郎
- 水泳(飛込)／監督:内藤直樹 選手:吉澤有馬・森淵茉莉愛・飯山幹太・三島友莉恵
- 弓道／監督:林 泰臣 選手:岩田匠平 ○体操／選手:石田莉子
- 陸上／選手:木村祐樹・堂前咲希・江原美月優・綾目ひなの・森脇叶美・竹堂ゆうみ
- テニス／監督:武田守弘 ○ボート／選手:砂場大和 ○セーリング／選手:濱田華帆
- ウェイトリフティング／監督:松井雅和 選手:高盛大輔・中山大一・川上 穰・河村智稀
- 卓球／選手:村上莉羽 ○フェンシング／監督兼選手:西尾亮介 選手:堀本達郎
- スポーツクライミング／監督:延近昌彦 選手:延近陸空斗
- ボウリング／監督:高橋忠夫 選手:石本美来・門田裕美・渡邊 葵
- ゴルフ／選手:細川達矢 ○トライアスロン／選手:岡田空大



全国障害者スポーツ大会

2022年(令和4年)10月29日~31日 栃木県

- 陸上／役員:清水 攻 ○アーチェリー／役員:浦戸範知 ○ボッチャ／選手:江種佑輔
- 卓球／選手:吉岡成実 ○フライングディスク／役員:相良穂積 選手:宮地 遼
- ボウリング／選手:森 日奈野

特別国民体育大会 冬季大会

2023年(令和5年)2月1日~5日 青森県

- アイスホッケー／成年男子監督:豊原民紀 選手:山本晴留
少年男子監督:山本真嗣 選手:平垣内春樹・平川陽人・宮前怜央
- スキー／総監督:藤井宣文



社行式(福山市役所1F) 2022年(令和4年)9月28日

編集後記



今回は、スポーツ協会主催の「ふくやまスポーツアカデミー2022」での学びを共有します。
日本は、座っている時間が最も長い国とのこと。じっと座っている時間が増えると、糖尿病やメンタルヘルス不調などの健康リスクが高くなるそうです。
世界保健機関(WHO)は、「何もしないよりは少しでも体を動かすほうが良い」と提唱しています。
私は、出来ることから…と思い、通勤時のウォーキングを始めてみました。
皆さんも、いつまでも健康であるために、それぞれに合った運動を始めてみませんか。

企画広報委員：高田幸恵

■広報誌／スポ協ふくやまVol.34 2023年(令和5年)3月10日発行

■発行／公益財団法人福山市スポーツ協会 〒720-0804 福山市緑町2番2号 福山通運ローズアリーナ内
TEL(084)927-9910 FAX(084)927-9913
email : rosearena@city.fukuyama.hiroshima.jp



※紙面の写真は関係者の了解を得て掲載しています。